



外務大臣上奏北米合衆國人エドワルド、
 エチ、ハウス叙勲ノ件
 右謹テ裁可ヲ仰ク
 明治三十四年十二月十八日

内閣總理大臣子爵桂 太郎 白

内閣

賞勳局告示第二九九號

明治三十七年

十一月十七日

明治卅四年十二月十七日

芳

内閣總理大臣 大 才

賞勳局總裁



外務大臣上奏北米合衆國人エトワルド、エチ、
ハス知勲、美右、明治ノ初年大學南校
御雇教師ヲ懇篤ニ學生ヲ指導シ貧困
ニ學生ニ學費ヲ給シ誘掖懇心到解雇後女子
英語学校ヲ設ケ慈善的ニ女子教育ヲ勤メ明治七
年西郷都督ニ從ヒ臺灣ニ赴キ斡旋スルアリ
又明治五六年、文英國公使「ハックス」他外國公使

内閣

ト謀リ帝、帝國政府ニ反抗シタルトキ米國公使
「デロング」モ英國公使、左祖シテ我ニ利ナラサルヲ以テ「ハ
ウス」ハ帝國政府ノ内命ヲ奉シテ米國、往キ同
國ノ新聞紙上、於テ大ニ米國公使ノ所為ヲ駁シ
遂ニ合衆國政府ヲシテ同公使ヲ召喚セシメ其後
任「ビンガム」ハ極テ日本ニ厚意ヲ表シ英國公使
ニ反對シテ帝國ノ利益ヲ謀ルニ至リ右ノ外合衆
國政府カ下關償金ヲ我ニ返還スルニ付キテモ
同人ノ功多ク居テ右等數圓ノ功勞ニ對シテ
明治十七年ヨリ廿三年ニ至ル七ケ年間特別年金

式千五百田下賜相成ハ處歐米列國ト條約改
 正ラ高議スル高時ノ外務大臣陸奥宗光ハ
 「ハウズ」ニ内命ヲ傳、米國諸新聞紙上盛
 日本ノ文明進歩ヲ稱道セシメ日米條約ノ改正
 ハ當ニ日本ノ利益ナルノミラス亦米國ノ利益ナル
 コトヲ 維論シテ大、同國輿論ヲ喚起シ終ニ新
 條約ノ訂結満足ノ結果ヲ得ルニ至リ然ル
 當時宛モ日清戰役ニ際シ旅順慘殺ノ瓦說
 遍ル歐米ニ傳播シ合衆國元老院既ニ調
 印シタル日米條約ノ批准ヲ否決セントスルノ意向
 あり因テ帝國政府ハ更、向人ノ力ヲ借リテ米國
 人ノ疑惑心ヲ消散ヒシメ遂ニ元老院ヲシテ該條約ヲ
 批准セシメタル等同人ノ帝國ニ對スル功勳ハ顯
 著ナルモノ有リ然ルニ目下病氣危篤ニ付此
 際特別ノ聖意ヲ以テ同人多年ノ勳功ヲ
 表彰被ヨ遊外務大臣上奏ノ通り勳
 二等ノ叙シ瑞寶章下賜被仰出可然
 哉此段仰允裁

内閣

北米合衆國人エドワード、エチ、ハウス儀ハ明治ノ初年大學南
校御雇教師タリ終始懇篤ニ學生ヲ指導シ公負困ナル學生
ニ自ラ學資ヲ給シテ執業ニ從事セシメ誘掖薰陶至ラサルナレ
解雇後女子英語學校ヲ設立シテ慈善的ニ女子教育ニ勤メ
明治七年西御都督ニ從ヒ臺灣ニ赴キ斡旋スル所アリ是ヨ
リ先キ明治五六年ノ交英國公使バークス他外國公使ト謀リ
常ニ帝國政府ニ反抗シタルトキ米國公使テロングモ英國公使
ニ左袒シテ我ニ利ナラサルヲ以テ「ハウス」ハ帝國政府ノ内命ヲ奉
シテ米國ニ往キ同國新聞紙上ニ於テ米國公使ノ所為ヲ駁シ遂
ニ合衆國政府ヲシテ同公使ヲ召喚セシメ其後任「ビンガ」秘
テ日本ニ厚意ヲ表シ英國公使ニ反對シテ帝國ノ利益ヲ謀ルニ
至リ右ノ外合衆國政府力下關債金ヲ我ニ返還スルニ付キテモ
同人ノ切多ク居レリ右等教團ノ切務ニ對シテ明治十七年ヨリ
二十三年ニ至ル七ケ年間ハ特別年金貳千五百圓下賜相成候
處歐米列國ト條約改正ヲ商議スルニ當リ時ノ外務大臣陸奧
宗光ハ「ハウス」ニ内命ヲ傳ヘ米國諸新聞紙上ニ盛ニ日本ノ文明
進歩ヲ稱道セシメ日米條約ノ改正ハ帝ニ日本ノ利益ナルニナラ
ス亦々米國ノ利益ナルコトヲ強論シテ大ニ同國ノ輿論ヲ喚起シ終ニ
新條約ノ訂結ニ満足ノ結果ヲ得ルニ至レリ然ルニ當時宛モ日

外務省

清戦争、際し旅順慘殺風説偏り歐米、傳播し合衆國元老院ハ既ニ調印シタル日米條約ノ批准ヲ否決セントスルノ意向アリ因テ帝國政府ハ更ニ固ク力ヲ借リテ米國人ノ疑惑ヲ消散セシメ遂ニ元老院ヲシテ該條約ヲ批准セシメタル等固クノ帝國ニ對スル功勳ハ顯著ナルモノニ有之因テ當時ノ内閣ハ其功勞ニ對シテ叙勳ヲ奏請セントスルノ内意ヲ泄シタルハ固ク之ヲ辭セリ其理由ハ自分カ日本ノ為ニ盡カスルハ一點ボル所アルニ非サルニシテナラス今後日本ノ利益ヲ謀ル為メ新聞ニ論議シ又ハ内外ニ周旋スルニ方リ若シ日本ノ勳章ヲ帶有スルトキハ世人或ハ日本政府ト特別ノ關係アルコトヲ疑フニ至リ大ニ行動ノ自由ヲ妨ケラルニ至ルヘシト云ニアリ

外務省

然ルニ目下病氣危篤ニ付此際特別ノ聖意ヲ以テ固ク多年ノ勳功ヲ表彰セラレ勳二等ノ叙ニ瑞寶章被下賜候様仕度此做謹テ奏ス

明治三十四年十二月十七日

外務大臣小村壽太郎

